

環境の三五へ
もっともっと。



お問い合わせ先

株式会社 三五 総合企画部 ESG推進室

〒456-0023

愛知県名古屋市熱田区六野一丁目3番1号

TEL:052-882-3593

FAX:052-872-6890

<https://sango.jp/>



SANGO Group Report
2024

CONTENTS

ご挨拶	02
三五グループ理念体系図	03
特集	
・ジャパンモビリティショー2023出展	05
・自動車分野を越えた新たな挑戦	07
・デジタル技術活用による業務効率化	08
未来トーク	
2040年に向けてみんなでもっといい会社へ	09
ESG報告	
・環境	11
・社会	15
・ガバナンス	20
会社概要	23
製品紹介	25
数字で見る三五	26

ご挨拶 Message

三五製品の創出を通じて、
世界と地域の環境に貢献し、
持続可能な社会を目指します。



三五グループは、創業から96年、設立からは74年にわたり、三五製品創出を通じて社会の発展や課題解決に取り組み、ステークホルダーの皆様と共に発展してきました。

2021年に策定した中期経営計画で「環境の三五」を掲げ、今年で4年目を迎えます。排気系事業の開発力向上に注力しつつ、新たな事業化の一つである建築設備配管 (FP35) の活動本格化や、カーメーカーの電動車へのシフト傾向

に対応するためのボディ部品事業の強化・拡大、電池関連部品の開発を進めることで、柔軟かつ着実に新たな取り組みを開始しています。引き続き積極的な技術革新とともに、世界に通用する三五製品の創出に挑戦していきます。

また、三五グループは地球環境に配慮し、地域社会との調和を目指す企業として、持続可能な社会の実現にも貢献し続けます。

お客様および取引先の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご鞭撻の程、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 水野 昭智

三五グループ理念体系図

三五グループが未来に向けてどのように進化し、どのように社会に貢献していくかを示す重要な指針である理念体系図を見直しました。

●社是と基本理念の見直し

三五グループ(以降、当社)は、常に変化する社会情勢や市場のニーズに応えるために、社是および基本理念の見直しを行いました。これまでの社是と基本理念は、当社の成長と発展を支える礎となってきましたが、今後更に持続可能な成長を実現するために、より社会とのつながりを意識した内容に改定しました。

新しい社是は、時代に合わせた表現に改定されています。また、基本理念は、当社のビジネス活動を支える価値観と信念を明文化し、持続可能な社会の実現に向けた当社の理念を表現しています。

●長期VISIONの策定

当社の長期的な未来に向けた方向性を示すために、SANGOグループVISION2040を策定しました。このVISIONは、未来に向けた当社の目指す姿を描き出し、スローガンである「Pure AIR & More.」を基に、事業を通し社会に貢献し、従業員が働きがいと幸せを感じる環境を提供することを目指しています。

普遍的な価値観

会社が創業時から大切にしている基本的な価値観や信条。

存在意義

会社が存在する理由や目的を示すもの。
なぜこの会社が存在し、何を目標としているのかを明確にするもの。

普遍的な指針

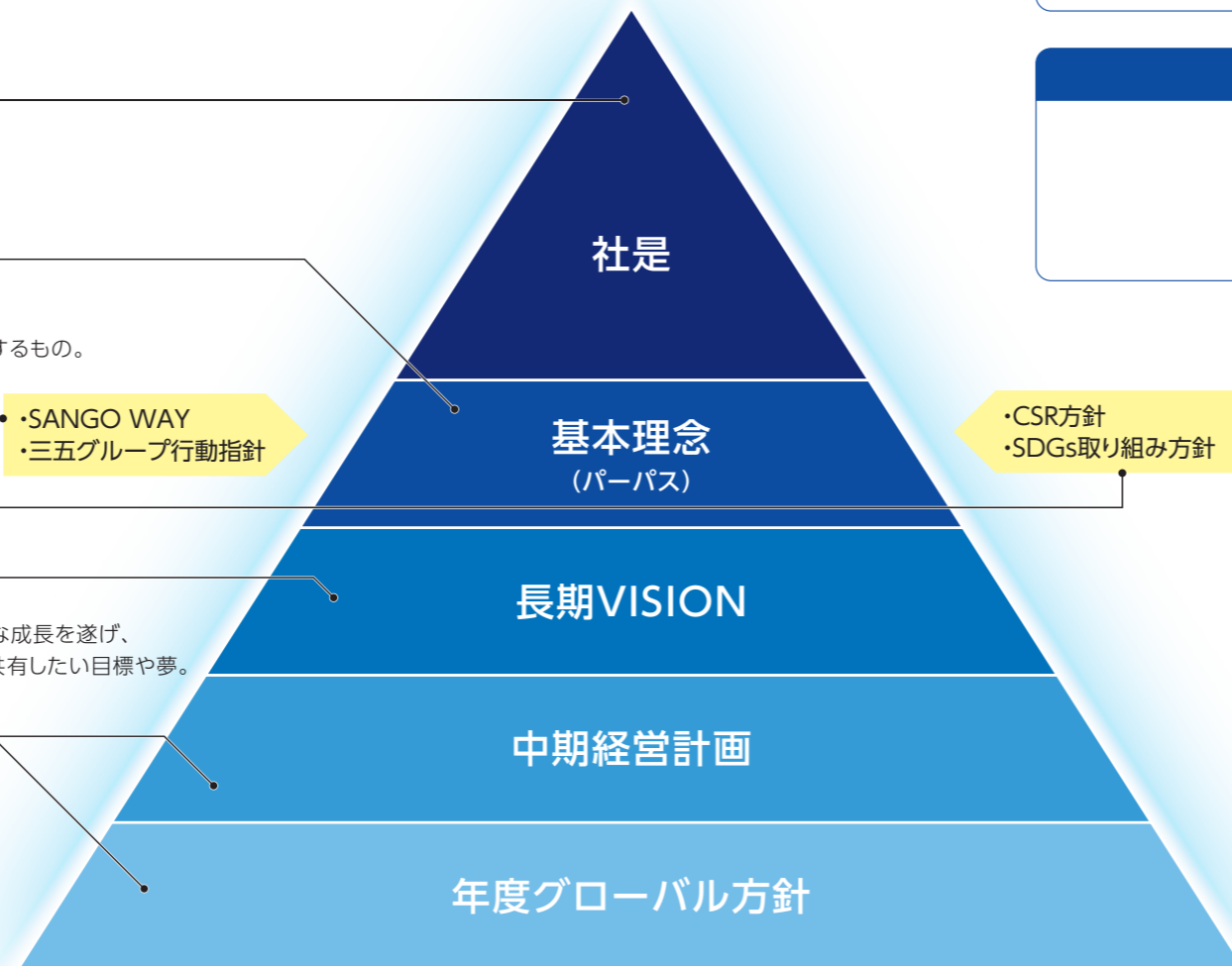
社是・基本理念を踏まえた
会社の全ての活動の基盤となる普遍的な指針

目指す未来の姿

会社が将来的に目指す姿を明文化したもので、どのような成長を遂げ、社会にどのような影響を与えたいかを示した、従業員と共有したい目標や夢。

経営計画・方針

長期VISIONを実現するための
会社としての戦略・戦術。
どのような行動を取るべきか、どのような目標を達成すべきかを具体的に示すもの。



社是

三五グループの繁栄
私達の地球 私達の仕事 そして私達の繁栄につとめましょう

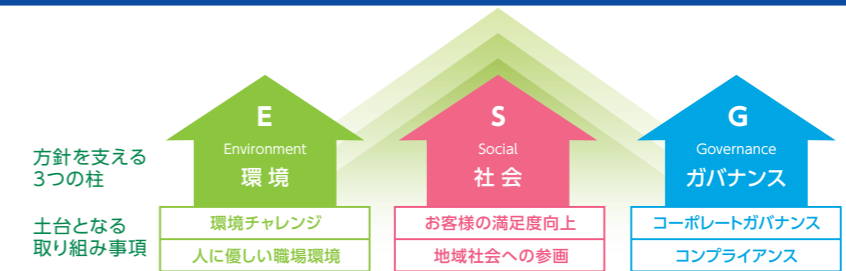
基本理念(パーパス)

持続可能な社会の実現のため、
「環境の三五」「人を大切にする企業グループ」を目指します。

- チャレンジ精神と行動力、伝統を継承した、世界で活躍する「ひとづくり」
- 技術を革新し、独創的な製品をつくり出す世界最高の「ものづくり」
- 地域社会と一体となった、個人と地球が調和する「環境づくり」

CSR方針

社会に貢献し、
信頼される、
持続的に成長する企業へ



SDGs取り組み方針

私たちは、三五基本理念に基づき
地球環境に配慮し、地域社会との調和を目指す企業として
自らの成長を通じて、持続可能な社会の実現に貢献します



SANGO WAY (行動原則)

三五従業員として自身の行動が、正しいかどうか判断するものさし

三五グループ行動指針

三五従業員が規範・羅針盤とすべき基本的な指針および具体的な留意点

長期VISION

SANGOグループVISION 2040
Pure AIR & More.

- ものづくり/コトづくりを通して、安全・安心で持続可能な社会に貢献する
- 働く仲間が自己の成長を通じて、働きがい・幸せを感じる環境を提供する

Pure AIR & More.

JAPAN MOBILITY SHOW 2023が
2023年10月26日～11月5日、東京ビッグサイトを中心に開催され、
延べ111万2,000人が来場されました。
三五は、前身の1992年東京モーターショー以来、31年ぶりにこの祭典に出展しました。
今回の出展を通して、三五は何を伝えたかったのか、何が得られたのかを振り返ります。

ブーステーマとメッセージ

東京モーターショーがJAPAN MOBILITY SHOWと名前を変えて初めて行われた今回のイベントには、モビリティ以外の産業やスタートアップなどからの参加がありました。ショーコンセプトは「みんなで一緒に未来を考える場」。三五が考える未来とは？それは、私たちがつくる環境製品を通して今よりもっと安心・安全な社会をつくることです。そこでブースのテーマを「Pure AIR & More.」「もっと、きれいな空気を。もっと、心地よい街を、社会を」として、排ガス規制や騒音問題、そして安全性能要求に対応する技術・製品を通して、三五が過去・現在・未来に向けて社会に貢献していることを一般来場者に向けてアピールしました。「More.」には、「もっと」の意味の他、音色づくりや熱マネジメント、建設業界向け配管システムFP35など、当社の「多様な」取り組みという意味も込められています。



ブース展示内容

創業96年以上、従業員約8,000人のグローバル企業となった三五ですが、一般の方にはまだその名が浸透していません。そのため、三五を知らない方にも興味を持ってブースに入ってもらえるように、ひと際目立つモニュメント「35?」を入口に設置しました。壁面グラフィックには、数字やキーワードをちりばめて、謎解きのように当社の事業内容やCSR活動を紹介。ブース配色やデザインには若手社員の意見を取り入れました。その結果、従来の緑基調の配色から一変して、空色を加えた明るい色合いを採用。大地、空気や水など環境を表現し、新たなことへのチャレンジを恐れない姿勢をも反映した仕上がりになりました。

複数のモニターに映し出した動画、音の聞き比べができるサウンドバー、FP35や過熱水蒸気加湿器など触れられる展示物に加えて、さわやかなミントの香りや風に揺れるカーテンを使った演出も行い、五感で楽しめる、来場者の印象に残るブースにすることができました。



31年ぶりの出展を終えて

会期中、2万人以上のお客様に三五ブースへお立ち寄りいただきました。予想以上の来場者数に驚きつつも、一般来場者からコアなモビリティファンまで、多くの方から好意的な声を聞くことができ、当社の取り組みに共感いただけたのではないかと感じました。三五は、社会へ貢献する一企業として、「もっと、きれいな空気を。もっと、心地よい街を、社会を」をつくり続けていることを今後も発信していきます。

環境への取り組みが必須となった昨今ですが、三五は製品を通して車の排ガス、騒音などの環境問題の解決を長年行ってきました。また脱炭素社会の動きに先駆けて2006年には植樹を始めています。しかしながら、BtoBが主体の三五は一般向けのアピールが十分にできていませんでした。そこで、東京モーターショーがJAPAN MOBILITY SHOWに生まれ変わったこの機会に出展しました。「Pure AIR & More.」環境の三五としてこれからも社会に貢献していきます。

執行役員／プロジェクト推進委員長 山田 高志



三五グループは長年にわたり自動車業界での実績と信頼を築いてきました。そして2024年、当社は新たな挑戦として自動車分野外への進出を決断し、建築設備配管を製造・販売する新会社の設立を決定しました。この決断は、時代の変化に対応し、主力事業である排気管の漸減に対処するための戦略的な決定であり、新たな成長の機会を見出すための重要な一歩です。

挑戦の経緯ときっかけ

2019年、当社のコア技術を活用できる可能性を建設業界の新しい日本空調株式会社との対話を通じて見出し、小規模プロジェクトとしてフェライト系ステンレス鋼鋼管を適用した建築設備配管の開発をスタートしました。初期には少人数で熱心に議論を重ね、フェライト鋼のカシメ成形性などの技術課題に取り組みました。当時、三五 八和田山工場技術本館の一角で行われた作業は、アップル社創業時のガレージを彷彿とさせるような熱意に満ちていました。その後、建築設備配管「FP35」を開発し、2021年には空気調和・衛生工学会大会で発表、2022年には特許を取得しました。これにより、製品価値と技術の差別化が認められ、事業化のスタート地点に立つことができました。



FP35施工実績(三五 豊田技術センターM棟)

●FP35の特徴

耐久年数向上(ライフサイクルコスト低減)

施工省力化

CO₂排出量削減

事業化への道のり

事業化には多くの課題と努力が伴いました。新市場への参入には既存のビジネスモデル見直しと柔軟なアプローチが求められ、社内では、自動車業界との生産方式の違いが大きな乖離を生み出しました。そこで、異なる市場ニーズを共通認識するため、各機能部門への説明と課題共有に奮励しました。一方で、社外ではノーラエンジニアリング株式会社との新会社設立に向けた協議を進めました。この協議では両社のビジネス文化や組織風土の違いが課題となりましたが、フェライト鋼の普及で一致し、新会社設立に向けた合意形成に至りました。

将来のビジョン

当社は、コア技術とソリューションを通じて、より豊かで持続可能な未来を創造することを目指しています。そのために、挑戦を継続し、多様な分野での新たな価値を提供し続け、2050年には環境ビジネスと技術の融合を図る「環境の三五」を目指します。

三五は、96年前、たった一台の小さなプレス機で手押しポンプの座金を生産することから創業し、マフラー生産で鋼材加工からユニット製品メーカーへと発展、いち早く海外進出を行い、成長してきました。今、電動化の流れの中で将来の打ち手を考える際に、培った技術を最大限活用し社会へ貢献することが一番の近道です。この活動を私はSangoソリューションズと呼んでいます。FP35の事業化は正にその一番バッテリーです。多くの方のサポートで課題を乗り越え、新会社設立と創業を推進していきます。

執行役員 山口 佳仁

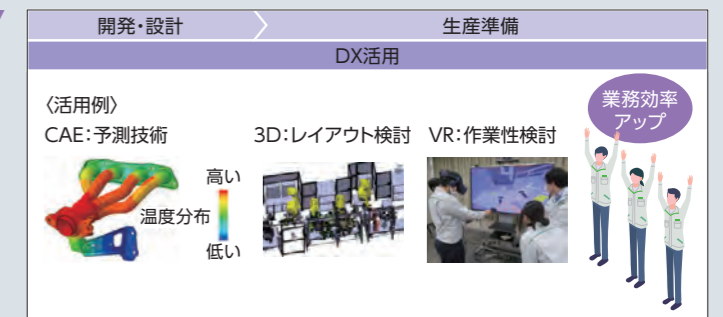


経営課題としてデジタルトランスフォーメーション(DX)を進めるため、当社は2022年にDX推進体制を設置しました。中期経営計画2025改の達成に向けて、開発・設計・生産準備でのCAE※・3Dの活用を推進する「技術チーム」と、ライン稼働状況の可視化・ペーパーレス化推進による生産性向上を行う「生産・製造チーム」、基幹システムをERPに移行し、多角的な損益の可視化・改善につながる原価把握・分析強化を進める「ERPチーム」が活動しています。経営判断や生産活動のプロセスを変革して、競争力の維持・強化を目指します。

※Computer-Aided Engineeringの略。コンピューターによる製品の設計・製造や工程設計の事前検討などのエンジニアリング作業用ソフトやアプリのこと。

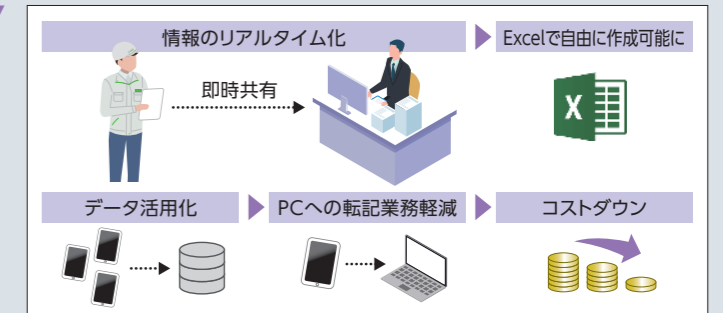
開発・設計・生産準備のDX推進事例

開発・設計・生産準備において、CAEによる予測技術や3Dの設備レイアウト検討、VRを活用することによるライン設置前の作業性検討などを導入しています。特に生産準備の工程検討における精度向上を目指した実証を開始し、DXツールを使いこなす人材の育成にも力を入れて業務効率化を進めています。



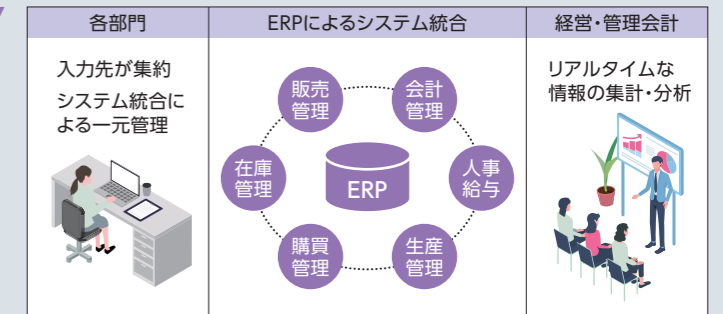
生産現場のDX推進事例

生産現場に情報を紙ではなくデータ入力する仕組みを導入してペーパーレス化するとともに、リアルタイムで入力されたデータから生産情報や分析結果を共有し、問題にすぐに対応できるよう活動しています。この導入によって作業員への負荷低減やコストダウンも図ることができます。



ERP推進事例

今まで各部門がそれぞれで導入・使用していたシステムを、ERPによってシステムを統合することで、リアルタイムな情報の集計・分析ができるようになり、資源(人・モノ・金・情報)の最適配置・分配と有効活用が可能となります。2025年度の本格稼働を目指して準備・検証しています。



三五グループを取り巻く市場環境が大きく変化しているなか、持続的な企業成長を図ることを目的にデータとデジタル技術を活用して、収益の改善や他社に対する優位性を確保する取り組みを推進しています。単なるデジタル化ではなく、全社視点での業務最適化、改革、生産性向上を目指します。1995年にWindows95が発表され、その後の業務が変わったように、経営層から担当者まで全社一丸となったDX改革推進を進めていきます。

執行役員 天野 潔



未来トーク

FUTURE TALK

SANGOグループの新たなビジョン、
「VISION2040」策定に向けて、
役員直下のワークショップを実施。
そのワークショップに参加した社員と役員が、
これからの三五について語り合いました。

2040年に向けて みんなでもっといい会社へ Pure AIR & More.



Q1 VISION2040のワークショップに参加して思ったことは？

恒川 今回のワークショップを通じて、将来のことを考えている従業員がたくさんいることに気づきました。これからは、そういう人たちと一緒に更に考え、会社へいろいろと提案していけば、会社も活性化していくと感じています。

安仲 2040年の社会を想像してみると、ユーザーに合わせた選択肢がもっと増えているのではないのでしょうか。現在、新製品開発をしている立場からすると、新たな選択肢をつくるぐらいの技術を開発できたらいいなと思っています。

山本 (賢) 参加前は、本当に自分の声は届くのかと実は思っていたんです。でも実際参加すると、今回はちょっと

今までとは違うなと感じるようになりました。現場の最前線の声が届くのは非常にありがたく、2040年に向けて会社がどんどん変わっていくことに期待が膨らんでいます。

山本 (三) 20代の参加者から、生き生きと仕事をしている人が少ないんじゃないかと声が上がりました。私は人事制度をつくる立場なので、そのギャップにショックを受けつつも、現実を見られてとてもいい経験になりました。2040年にはみんながもっと自信を持って働ける会社を目指したいと、今は強く実感しています。

坂田 今回のワークショップ参加者には、自分たちで考えアウトプットしてもらい、いいものはエッセンスとしてビジョンに盛り込みたいと伝えました。そして、部や職場を超えて話すことで、会社や自身の将来を考えるきっかけにしてもらいました。これを機に従業員エンゲージメントをもっと高めていきたいですね。

Q2 なぜ新たにビジョンを作るの？

山本 (三) 会社がどうなっていきたいかがあって、自分がどう会社に貢献するか、どう仕事をしていくかにつながるので、ビジョンはとても大切なかなと思っています。

山本 (賢) 部下を導くことはすごく難しい大きな使命だと思うんですけど、そのとき目指すべき指標や夢、価値観となるビジョンは必要だと思いますね。

安仲 ビジョンを示すと、自分の仕事の位置づけをみんなが理解できて、そうすると安心してやりがいを持って働けるのかなと思いました。

坂田 世の中が変わってきている中、人の思考はこのままでまだ大丈夫だと考えがち。でも現状をきちんと認識すれば、会社は進化しないといけないんです。従業員も社内価値ではなく「市場価値」で生き残れるようにならないといけない。今、この危機感を持っている人が増えてきました。今回新たなビジョンを掲げることで、その流れを更に加速させていきたいです。

Q3 VISION2040の達成に向けてやっばいこうと思うことは？

恒川 新ビジョンの精神をしっかりふまえて、部としてできることを私だけではなくメンバーと一緒に考え、部の方針を立てたいと思います。そうするとビジョンの存在意義も共有でき、みんなが納得して変わっていけるんじゃないかと。今回、参加したからこそより強く思っています。

坂田 SANGOグループのリーダーのみなさんがそういう気持ちになっていけることがとても大事なことです。自分たちの会社は自分たちでよくしていく、ということです。

Q4 今回の経験を今後どう役立てたい？

安仲 今回の活動で三五をよく知り、何に取り組むべきかを一連の流れで勉強できたので、開発戦略を立てるときに活かしていきたいですね。

山本 (賢) 目の前のことだけでなく、2040年、更にもっとその先をちゃんと見据えながら、日々の業務に取り組まないといけないと思いました。

山本 (三) 自分はいいと思っていたけど、他の人はそこを不安に思っていたとか、人の価値感や考え方の違いを改めて実感しました。周りや先のことについて、もう少し視座を高くして考えることを大切にしていきたいと思っています。

恒川 みんなで会社をより良くしていくことは、これからずっとやっていかなきゃいけないんだと改めて強く思っています。

坂田 みんなが共感できる夢、そういうビジョンであることが大切だと思う。今回、ワークショップを通じてみなさんが実感したこと、気づきの経験を職場で分かち合ってもらいたい。ビジョンを共有することで、社員一人ひとりがつながりSANGOはもっとよい会社になると考えている。社員はもちろん地域社会ともビジョンを共有し、風通しよ楽しい「環境の三五」となるよう、いろんな仕掛けや仕組みなど工夫し施策を実行していきたい。



生産統括部 恒川 弘道 入社12年目。ワークショップでは、チームリーダーとしてメンバーを牽引。	福田EG部 製造技術課 山本 賢太 入社15年目。製造最前線のトップランナーとして大規模PJT遂行や部下育成の両立に奔走。	人事総務部 人事労務室 山本 ミク 2020年の入社以来、人事総務部に所属。人事制度の企画・運用を担当。	代表取締役副社長 坂田 浩己 さまざまな改革を進めながら、「VISION2040」の推進役員として指揮をとる。	電池技術部 電池パック開発室 安仲 慶祐 入社18年目。技術部で新製品を開発。ジムカーナが趣味という大の車好き。
---	---	--	---	--

「VISION2040ワークショップとは」 VISION策定に向けて役員直下で取り組んだ従業員参加型のプロジェクト。三五の若手・中堅世代3チームと基幹職・幹部職級1チーム(計35名)が2023年7月から翌年1月までの間にそれぞれ活動。外部・内部環境分析、ミッションの提示、ミッション達成に向けた事業の方向性、経営基盤、経営目標などについて議論を重ね、役員に提案した。

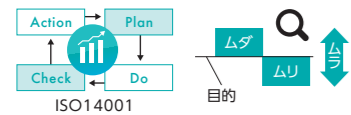
環境長期ビジョン「三五環境チャレンジ2050」

三五グループは、2017年より環境の長期ビジョンとして「三五環境チャレンジ2050」を策定しました。2050年の地球環境を見据えて経済成長と地球環境保全の両立を図り、持続可能な社会の実現に向けて、3つの価値を創造するために5つのチャレンジに取り組んでいます。



チャレンジ 5

環境マネジメントシステムを構築し、環境リスクを管理し、予防と継続的改善(運営・管理の強化)



チャレンジ 4

人と自然が共生する社会の実現に向けた生物多様性の保全、自然環境の保護活動の推進

- ・植樹活動・ビオトープ整備活動
- ・外来生物駆除活動

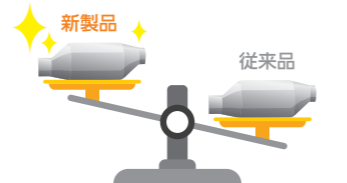


チャレンジ 1

材料調達から設計、製造、使用、廃棄・リサイクルまでのトータルで環境に配慮した事業の推進

チャレンジ 2

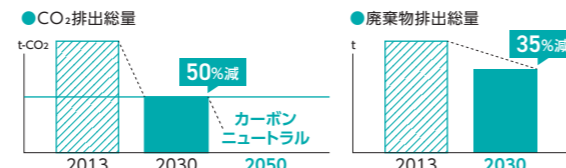
お客様の環境価値に貢献する、高付加価値な製品の開発・設計 → 軽量化による燃費性能向上でCO2削減“貢献”



チャレンジ 3

つくり方の改革を通じ、生産活動の排出物を削減するものづくり

三五グループ連結管理(2019年9月~) 三五グループ全体(グローバル)の中長期計画を作成し運用を開始 全事業活動の排出物(CO2・廃棄物・化学物質・水など)削減



中期環境行動計画「第2次環境取組みプラン」を推進中

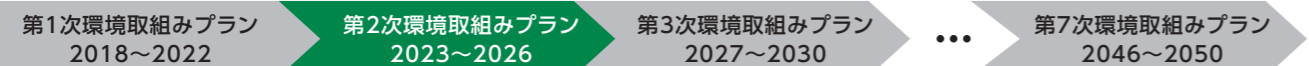
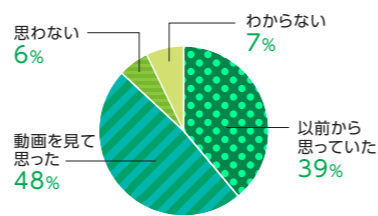
三五環境チャレンジ2050を確実に達成するため、2026年までのCO2や廃棄物排出量の定量的な目標と具体的な活動計画を織り込んだ中期環境行動計画「第2次環境取組みプラン」を策定し、推進しています。

毎年6月には環境月間特別行事を行い従業員の環境意識の向上を図っています。2023年度は、身近な事例を紹介する動画の視聴を通じてカーボンニュートラルについての理解を深めました。更に、自分自身の業務とカーボンニュートラルとのつながりを考え、個人または職場単位でカーボンニュートラルに向けた宣言を立てました。

今後も従業員一人ひとりが環境への関心を高く持ち、行動するように、第2次環境取組みプラン目標達成を果たし、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

●環境月間特別行事後のアンケート結果

「自身の業務がカーボンニュートラルにつながっていると思う」従業員の割合 回答者数 2,380人



「三五グループ」第2次環境取組みプラン」2023年度実績(抜粋)

●CO2排出量と廃棄物排出量

2023年度 目標	2023年度 実績	結果
◆CO2(スコープ1,2*)排出量 【三五+国内事業体*2】 55,144 t-CO2 (2013年度比 24%削減)	41,778 t-CO2	目標達成率 132% 😊
◆廃棄物排出量 【三五グループ全体(グローバル)】 6,730 t (2013年度比 3.5%削減)	6,727 t	目標達成率 100% 😊

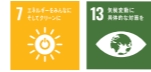
※1 世界的基準GHGプロトコル、スコープ1(事業者自らによる温室効果ガスの直接排出)、スコープ2(他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出)
※2 海外事業体のCO2(スコープ1.2)排出量については、各国毎にBM目標を定めて推進中

●主な活動と成果

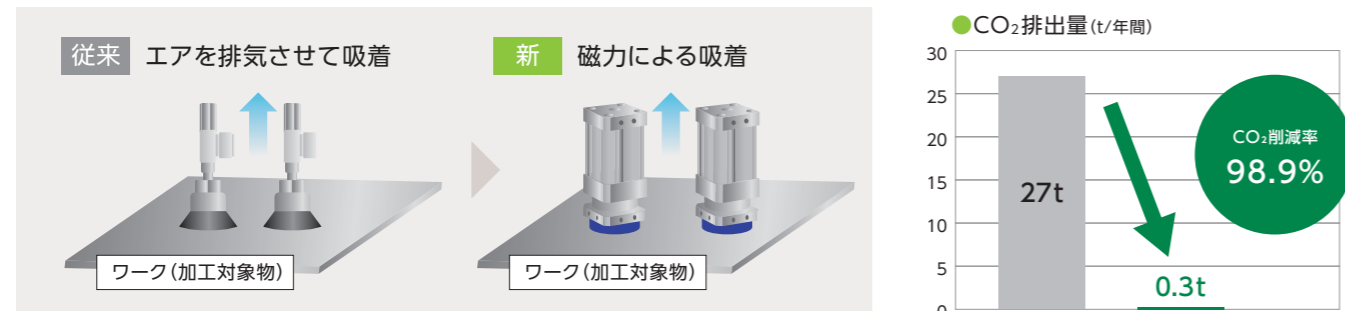
分類	「2050環境ビジョン」5つのチャレンジ	取り組み項目	2023年度 実績
環境貢献製品の市場拡大と創出	1. ライフサイクルCO2ミニマム化にチャレンジ	材料調達から設計、製造、使用、廃棄・リサイクルまでのトータルで環境に配慮した事業の推進	製品単位のライフサイクルCO2排出量低減 ・エキゾーストマニホールド対象モデルの生産時電力使用量を実測しCO2排出量を算定、材料製造時・輸送時・自動車走行時と合わせ、製品単位のライフサイクルCO2排出量を算出
		仕入先・物流過程における環境負荷の見える化、CO2低減活動	・仕入先(34社)のエネルギー使用量調査と改善事例の横展。また、仕入先の活動促進を目的に「カーボンニュートラル活動貢献賞」を設立 ・物流費低減活動により輸送・配送時CO2排出量低減
事業活動による環境負荷の低減	2. 新車CO2ミニマム化にチャレンジ	お客様の環境価値に貢献する、高付加価値な製品の開発・設計	軽量化による燃費貢献 ・性能の向上、法規制値を遵守しつつ、主要車種の排気管・エキゾーストマニホールドに設定した軽量化目標を達成(5.2kg軽量化) ・環境に寄与する新製品の開発も推進中
		つくり方の改革を通じ、生産活動の排出物を削減するものづくり	自社工場・ライフサイクルCO2排出量の削減 ・新規プロジェクト導入時に原価低減・環境負荷削減(CO2削減)を目的として生産性向上、設備費低減、材料費低減などを検討 ・ワーク保持方式の見直しにより、CO2排出量を大幅に削減 日常生産活動における廃棄物排出量の削減 ・プレス洗浄機廃液ろ過による含油廃水低減などの削減アイテムの効果が大きく、生産数増加の中で目標を達成
自然環境の保全	4. 自然共生社会の構築にチャレンジ	人と自然が共生する社会の実現に向けた生物多様性の保全、自然環境の保護活動の推進	CO2吸収・削減に向けた森づくり ・累計植樹本数は326,175本となり、CO2吸収に貢献(673t) ・とよはし工場が緑化に功績のあった工場として「日本緑化センター会長奨励賞」を受賞
事業活動による環境負荷の低減	5. 環境マネジメントシステムの構築にチャレンジ	連結環境マネジメント体制を構築し、環境リスクを管理し、予防と継続的改善(運営・管理の強化)	環境法令遵守と環境事故の未然防止活動 ・ISO14001認証継続(三五グループ取得率93%) ・環境法令遵守状況の定期チェック(2回/年)により是正・再発防止策実施済み 環境情報の積極的開示によるコミュニケーションの充実 ・CDPサプライチェーンプログラム 気候変動[Bランク]・水セキュリティ[Bランク] ・従業員への環境意識向上活動として環境月間特別行事実施(1回/年)

次のページで2023年度活動の一部を紹介

自社工場およびライフサイクルCO₂排出量の削減 チャレンジ①&③



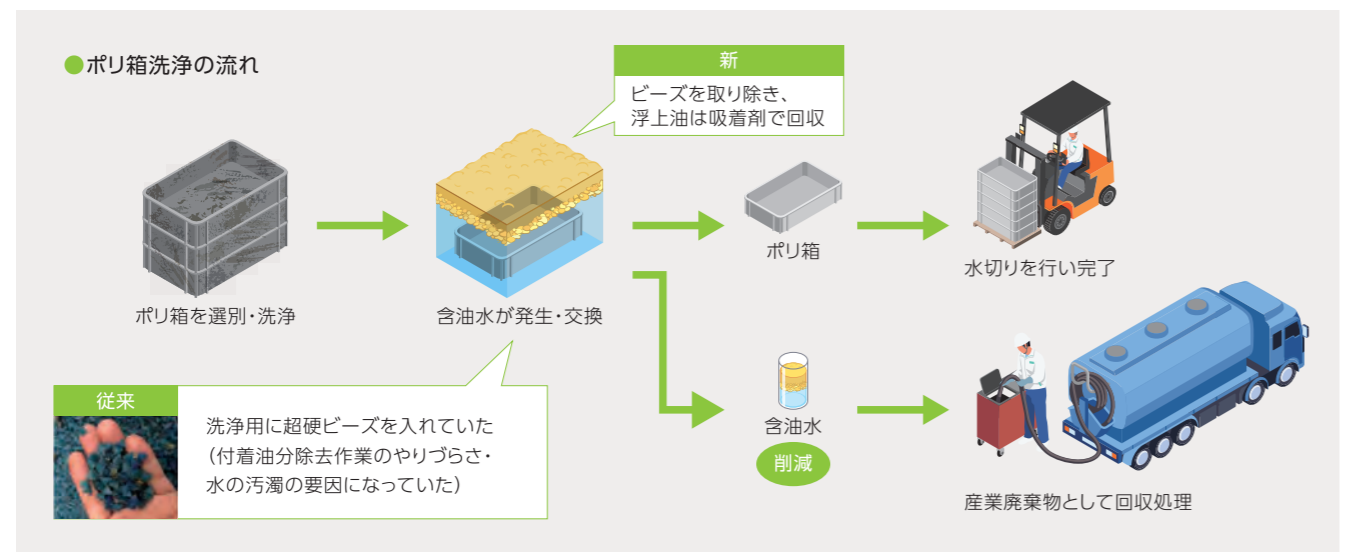
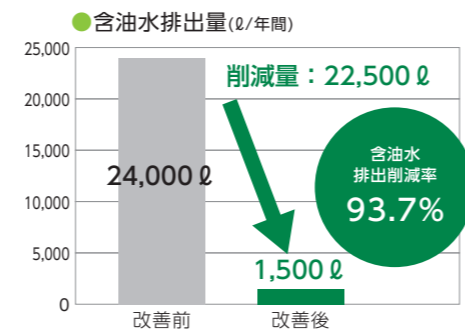
環境負荷削減の取り組みとして、当社では生産活動におけるCO₂排出量低減活動、省エネ活動を地道に推進してきました。工場ではコンプレッサーによるエア(圧縮空気)を動力源として活用することが従来でしたが、消費電力が大きく環境負荷が高いため全社的な見直しを進めています。例えば、三五 いなべ工場では、搬送工程におけるワーク(加工対象物)の保持方法を、エア吸着式から磁力で吸着させる方式に変更しました。これによってエアの大量使用が不要となり、消費電力を低減し、CO₂排出量換算で26.7t削減しました。この変更は新規設備だけでなく既存設備への採用も可能です。今後多くの設備に採用し全社でのCO₂排出量の削減につなげていきます。



日々の生産活動における廃棄物排出量の削減 チャレンジ③



当社では、日々の生産活動における廃棄物排出量の削減に努めています。従業員の気づきなどから改善につなげる取り組みも活発です。例えば、三福では生産活動で使用するポリ箱を洗浄する際、以前は汚れを擦り落とす効果があるとされている超硬ビーズを水槽に入れていました。しかし作業員からビーズに油がまとわりつき清掃しづらい、ビーズの油汚れが汚濁の要因となり水の交換頻度が多くなっているのではないかとの声が上がりました。検証した結果、ビーズなしでも洗浄可能なことが分かり、ビーズは取り除きました。また、吸着剤で浮上油を回収することで、洗浄水の汚濁状況が確認しやすくなりました。含油濃度測定による数値管理で、水の交換頻度を定期から必要時にしたことで、産業廃棄物として回収・処理されていた含油水を大幅に削減することができ、作業員の工数低減にもつながりました。



生産工程内の改善による環境推進活動

チャレンジ①&③



当社では、従業員の気づきによる生産工程内の改善や工夫を継続的に行い、環境負荷削減につなげています。三五関東では2023年度の取り組みとして、溶接完了品を冷やす工程をコンプレッサーによる工場エアの吹き付けから小型ファンブローワに切り替えました。この改善によりCO₂排出量削減と騒音の低減を実現し、それが評価され、日野自動車から「2023年 環境推進賞」を受賞しました。

CO₂削減効果 760 kg/月

2024年3月、日野自動車環境推進賞



グリーンエネルギーの利用

チャレンジ①&③



2050年のカーボンニュートラル実現に向け、当社は、グリーンエネルギーの利用によるCO₂排出低減活動を進めています。すでに太陽光パネルの設置を終えている三福、三五タイ(STEM)に加えて、2024年3月は広州三五(GSC)、7月には三五 いなべ工場で太陽光発電システムの稼働を開始しました。GSCに設置したシステムの年間発電予測量は143万kWhで、工場の約10%の電力を補うことができ(2023年電力使用量比)、年間1,072tのCO₂削減が実現します。

カーボンニュートラルを先導する欧州地域が主なお客様である三五トルコ(STI)では、2022年から工場に必要な全ての電力をI-REC※認証されたグリーンエネルギーでまかっています。

STIで使用する再エネ電力比率 100%

※International Renewable Energy Certificate 国際的な再生可能エネルギー電力証書



2024年3月、広州三五(GSC)が工場に太陽光パネルを設置

地域と連携した森づくり活動

チャレンジ④



生物多様性の向上とカーボンニュートラルの実現に向けて、当社では森づくりに取り組んでいます。2006年からグループ全体で行っている敷地内の植樹に加えて、今では、地域の植樹活動へ積極的に参加協力しています。三五メキシコ(SAM)では2023年度に初の植樹活動、地元大学と共同で大学構内に植樹を行ったり、三五北海道では「北海道植樹祭」や「北海道千年の森プロジェクト・いのちの森植樹祭」など地域の植樹イベントへ参加したりしています。地域への貢献に加え、従業員一人ひとりの環境に対する意識を向上させながら活動の輪を広げています。

成長した森は減災にもつながります。南海トラフ地震で津波が予想される三五 とよはし工場では防潮堤として、工場を囲うように約2万本の本を植えています。継続して行ってきた活動が評価され、第42回工場緑化推進全国大会にて「日本緑化センター会長奨励賞」を受賞しました。



2023年11月、SAM初の植樹活動



2024年5月、北海道植樹祭に参加



2024年1月、工場緑化推進全国大会とよはし工場受賞の様子

三五のSDGsの取り組み



2022年に「三五SDGs取り組み方針」を発表し、現在15の目標を重要テーマとして活動しています。国内の各自治体ではSDGsの輪を広げるためSDGs認定制度に企業の登録を推進しており、当社は積極的にその登録を目指しています。

また、毎年従業員個人としてのSDGsの目標と行動を宣言しています。宣言シートを部署ごとに掲示し、宣言したSDGsの目標に対し意識的に行動することを推進しています。会社の取り組みや、一人ひとりの行動が大きき力になっていくと考え、今後も地球の未来のために行動していきます。

●「SDGs行動宣言シート」の宣言率が高かったSDGs目標



57部署 3,503人*が宣言

*集計対象：三五+国内事業体



三五のSDGs

●SDGs企業 登録済み地域(2024年6月末時点)

愛知県	名古屋市	みよし市	豊橋市	三重県	いなべ市	下妻市	北海道
愛知県SDGs登録制度	名古屋市SDGs推進プラットフォーム なごやSDGsグリーンパートナーズ	みよし市SDGs推進パートナー	豊橋市SDGs推進パートナー	三重県SDGs推進パートナー	いなべ市SDGs推進パートナー	下妻市SDGsパートナー	北海道SDGs推進ネットワーク

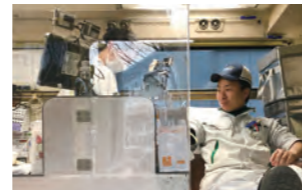
三五の社会貢献活動



当社は「環境づくり」「社会福祉」「地域防犯」「災害復旧」の4つを重点分野として社会貢献活動を推進しています。世界や地域住民の方々に貢献する会社になることを目指します。

●主な活動

環境づくり	2016年から愛知県みよし市を中心に行っている特定外来生物駆除活動の他、国内7拠点、海外3拠点で工場周辺の清掃活動などを実施
社会福祉	国内は献血活動(三五 八和田山工場)や(公財)日本非常食推進機構へ備蓄食料を寄贈(三福)、海外は児童福祉イベントへの参加(STI)、孤児院への寄付(SID)などを実施
地域防犯	国内7拠点の周辺で交通安全立哨活動を実施
災害復旧	2024年1月に発生した能登半島地震の被災者の方へ義援金を寄付



2023年12月、献血活動(八和田山工場)



2024年5月、襄陽三五(XSC) 隣地の池周辺清掃活動

生産現場の改善活動



当社では、生産現場における困り事を従業員自身のアイデアで解決する活動を行っています。その一つが、お金をかけずにシンプルなメカニズムを使って改善する「からくり改善」です。第28回からくり改善くふう展では、鋼材の納品作業時の安全性と作業効率を向上させた三五 三好工場の作品が、からくり改善技術普及部門の最高評価である「愛知県知事賞」を受賞しました。他にも、創意工夫提案などを通じた全社的な改善活動を行っています。



2023年11月、第28回からくり改善くふう展

お客様の満足度向上に向けた活動



当社は、安全で高品質な製品づくりで、期待以上の喜びをお客様にお届けすることを目指しています。三五トルコ(STI)は、トヨタモーターヨーロッパ(TME) 2023年アワード7部門中、SUPPLY金賞を始めとした3部門を受賞しました。グループ全体で、自分たちが製造した部品を待つ次工程・部門は、自社・他社にかかわらず「お客様」という意識を強く持ち、品質の良いもののみをお渡しすることに努めています。



2024年5月、授賞の様子

サプライチェーンにおける環境の取り組み



LCA(ライフ・サイクル・アセスメント)の観点で、当社は原材料や部品のサプライヤーと共にカーボンニュートラルに向けた活動を推進しています。毎月行っている仕入先連絡会では、サプライヤーのカーボンニュートラルへの取り組みについて定期報告をお願いし、その中の優秀な事例については現地見学会を実施するなどして協力企業と内容を共有しています。2024年3月の仕入先総会では、「カーボンニュートラル活動貢献賞」を新設し、CO₂削減活動の更なる推進に努めています。

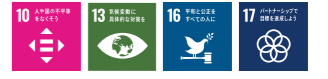


2024年3月、仕入先総会



2023年9月、環境優秀事例の現地見学会

サプライチェーンの強化活動



調達の基本方針

当社は、サプライヤーとの共存・共栄の考えの下、「調達の基本方針」を定め、サプライヤーの皆様とパートナーシップを深めながら、持続的な成長を共に目指しています。

●調達の基本方針

- 01.オープンで公平・公正な取引
- 02.相互信頼に基づく相互発展
- 03.グリーン調達の推進
- 04.災害リスクマネジメントの徹底
- 05.法令遵守と機密保持の徹底



調達基本方針

サプライチェーン全体でのサステナビリティへの取り組み

サプライヤーの皆様と共に持続可能な社会の実現を目指した事業活動を推進するために「三五グループ仕入先サステナビリティガイドライン」を策定しました。同ガイドラインは人権、労働、環境、コンプライアンスなどの項目に関する方針を定めており、サプライヤーへ長時間労働などの社会面に加え、水使用や生物多様性などの環境面への配慮と法令遵守をお願いしています。また、紛争鉱物については、責任のある資源・原料調達をサプライヤーに要請するとともに、全てのサプライヤーの協力の下、紛争鉱物に関する調査を実施しています。



仕入先サステナビリティガイドライン

「三五グループグリーン調達ガイドライン」の推進

環境問題の深刻化は企業にとって新たなリスクとなります。当社では2023年4月、「三五環境チャレンジ2050」の内容と依頼事項をより明確にするため、現在の社会動向を踏まえながら「三五グループグリーン調達ガイドライン」の改定を行いました。環境と調和を図りながら、サプライヤーと持続的な成長を目指します。



三五グリーン調達ガイドライン

サプライヤーとのパートナーシップ強化

毎年3月に開催する「仕入先総会」では、経営理念や事業環境、会社方針の説明と、調達年度方針の発表を行い、サプライヤーと安全・法令遵守・環境・品質・コスト競争力強化・供給リスクについての課題や目標を共有しています。また、サプライヤーの経営者を対象に、企業経営や財務、人事、法務などさまざまな経営課題について率直な相談を受け、実効性の高い解決策を提案することに努めています。

品質保証システムの確立

当社では、ISO9001やIATF16949の取得を通して、品質マネジメントシステムの確立を進めています。2023年には、三五グループ内6拠点目として、三五インド(SIAP)がISO9001およびIATF16949の認証を取得しました。今後もお客様から信頼される会社を目指し、更なる品質向上に努めていきます。



ISO9001(左)とIATF16949の認定証

製造現場における人材開発

災害・不良・故障のない設備、職場を目指して、三五と国内事業体では2019年度から自主保全士の資格取得に力を入れています。2023年度は過去最多の53名(1級:14名、2級:39名)が自主保全士検定試験に合格し、累計129名が資格を取得しています。加えて当社では、社内技能検定やさんごりん(社内技能五輪)の開催、国家技能検定への挑戦の後押しなどを継続的に行い、製造現場で必要な知識と技能を持った人材を育てています。

自主保全士検定試験合格者
累計129名



2024年6月、さんごりん

VRを使った安全活動

災害ゼロを目標に、当社では従業員に対するさまざまな安全教育を行っています。中でも2022年度より三五で開始したVR(仮想現実)機器導入による安全教育では、STOP6※にまつわる講習を行っています。2023年度には、一般従業員を含む967名が受講し、すでに受講した職制287名と合わせて、計1,254名が教育を受けました。引き続き安全教育を行い、実際に起きた社内の災害事例を取り入れるなどして、更なる安全意識の向上につなげていきます。

受講者数合計
1,254名



安全教育の様子

※重大・準重大災害が多く起因するとされる「挟まれ・巻き込まれ」「重量物による接触」「車両との接触」「墮落・転落」「感電」「高熱物との接触」を防ぐための6つの鉄則

従業員の健康を促進する活動

従業員が健康に働き続けることが企業の社会的価値向上と三五の発展につながると考え、「健康な心と身体はすべての原点」という三五健康宣言の下、2020年から健康経営活動に取り組んでいます。各工場に保健師・看護師が常駐する健康管理室を設けて、体調不良者や健康相談に応じて従業員を日々サポートしています。また、年間を通して社内歯科検診、社内インフルエンザ予防接種、運動・禁煙促進セミナー、食事と運動の個別保健指導など、さまざまな活動を実施して疾病予防や健康促進に励んでいます。

2023年度からは「女性の健康」にフォーカスし、女性従業員と看護師が1対1の面談を行うなどして、女性特有の健康課題を支援する活動をスタートしました。こうした取り組みが評価され、2024年度も健康経営優良法人の認定を取得しました。

- 健康相談室の数 6カ所
- 相談員数 9名
(内産業カウンセラー 2名)



人材育成

当社は、「ひとづくり」を基本理念の柱の一つに掲げ、人材育成のため新入社員から中途採用者、管理職まで幅広い内容の教育を行っています。三五では、2023年度に発表した新人事制度が目指す「成長・活躍のステージに合った人事制度」の効果的な運用に向けて、役割に応じた教育や選抜教育、自律的な学習習慣づくりのために自己啓発の受講支援をする取り組みを行っています。

●三五の教育体系

階層	階層別研修(集合研修、リモート研修)	自己啓発	選抜教育
管理職	・幹部職研修 ・基幹職研修		幹部候補選抜研修
主任職	・新任主任職研修 ・課題創造型問題解決研修		中堅層選抜研修
中堅社員	・中堅社員研修 ・発生型問題解決研修(応用)	国際化対応教育(語学) コンプライアンス教育	海外トレーニー
一般社員	・発生型問題解決研修(基礎) ・TPS入門講座	公的資格取得 通信教育 国家技能検定	
新入社員	・新入社員研修 ・論理的思考・表現基礎研修		

「中堅層選抜研修」受講者の声

リーダーシップについて社外の方々と学ぶ「社外スクール」へ参加しました。3か月間という長期間かつ毎回の予習や事前課題があり、かなりハードな研修でしたが、異業種の方との意見交換、さまざまなケーススタディや職場実践を経て、考え方の幅が広がりました。リーダー候補の1人であることへの自覚も芽生え、今後は成果を出しながら人材育成も図れるリーダーになれるよう努力します。



人事総務部 人事労務室
杉浦さん

働きやすい職場づくり

年次有給休暇取得の推進

従業員の皆さんに仕事もプライベートも充実していただけるように、三五では年次有給休暇(以下、年休とする)取得を推進しています。2023年度は自らが働き方を変えるための意識づけとして、年休取得計画の立案推進や勤怠管理システム改修による年休カット日数の見える化、年休取得しやすい職場づくりの周知活動を行いました。その結果、取得率は91.6%となり、2022年度から5.6%向上しました。

2024年度からは年休カットゼロを目指した活動の本格運用を開始し、3日連続年休に土日を加えて5連休にする35VACATIONやご本人・ご家族の誕生日、結婚記念日などを祝う記念日休暇などの積極的な活用を推進しています。

2023年度
年休取得率
91.6%

個々の能力発揮をサポート

さまざまな特性やライフスタイルを持つ従業員が自分の能力や培った技術・技能を活かして働くことができる会社を目指して三五は取り組んでいます。障がいがある従業員が安心して働くことができるように、資格を持った相談員がサポートしています。再雇用制度は、定年を迎えた従業員8割以上が利用している制度で、再雇用前と同様に目標面談を実施し、その評価を処遇へ反映することで、より「やりがい」を感じる仕組みになっています。

また、子育て支援として男性・女性を問わず利用できる育児休業や短時間勤務、出産祝い金や入学祝い金などの制度を設け、介護休業制度などの運用も行うことで、ご家庭の環境に合わせて長く働くことができる制度づくりを進めています。

人権尊重に関する取り組み



人権方針の策定

近年、企業の人権課題への取り組みの重要性が拡大する中、当社でも社会の一員である企業として、全ての活動において人権尊重の重要性を認識し、人権に関する基本姿勢を「三五グループ人権方針」として明文化しました。今後も当社の事業にかかわる国と地域で、人権を尊重する経営を推進し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



三五グループ人権方針

人権方針の重点テーマ



人権デューデリジェンスの仕組み構築

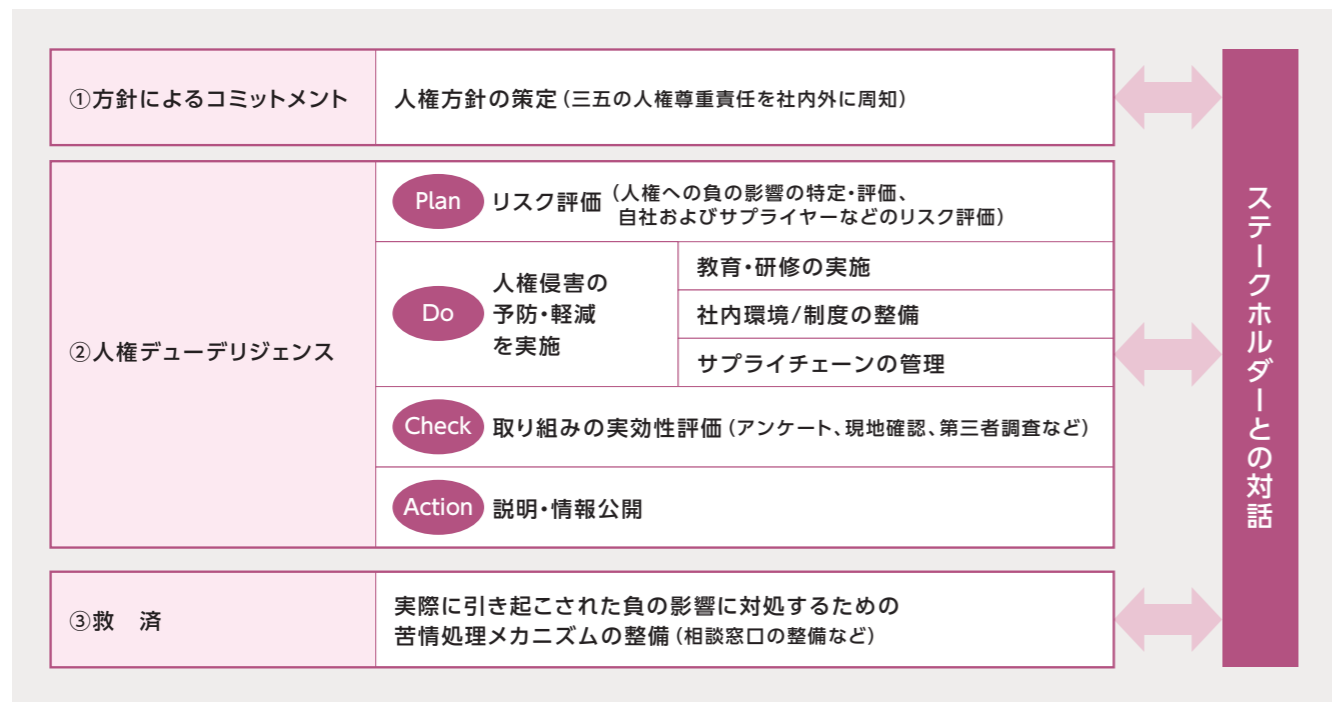
人権方針に基づき、人権デューデリジェンスの仕組みを構築し、事業活動における人権への負の影響を特定し、その未然防止と軽減を図るよう努めています。

教育・研修の実施

月度朝礼や社内報による啓発活動やE-learningの実施を通して、当社における人権尊重の企業風土づくりに向けた教育・研修を実施し、人権尊重の意識浸透を図っています。

三五グループにおける人権対応の全体像

PDCAサイクルを回すことで、人権デューデリジェンスを継続して実施し、人権リスクに対処していきます。



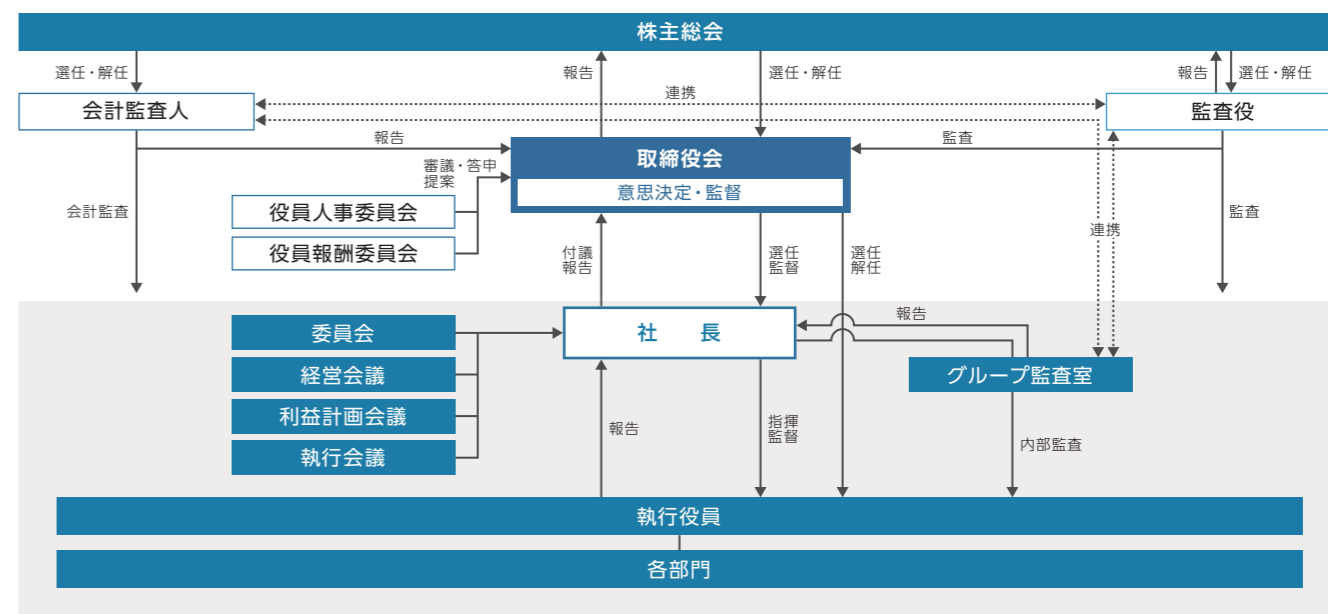
コーポレート・ガバナンス体制



当社は、会社経営において公正な判断や運営がなされるように監視・統制する仕組みを設けたガバナンスの強化に取り組んでいます。不祥事発生、企業の持続的成長力や中長期的な企業価値向上力の低下を防ぎ、企業の信頼性向上に努めています。

従業員を始め、株主・お客様・仕入先様・地域社会などさまざまなステークホルダーを意識した、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定ができるよう、下図のとおりコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



最高経営意思決定機関である取締役会の構成は社外取締役3名を含む10名*とし、法令に定められた事項や経営にかかわる重要事項の決定、取締役の監督機関として位置づけています。一方で公正・独立の立場から社外監査役を含めた、監査役が取締役の職務執行、経営の監査を行う体制を構築しています。*2024年6月27日現在

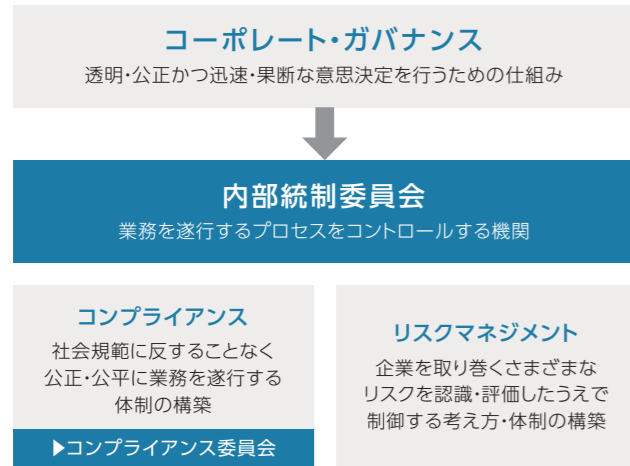
役員一覧 2024年6月27日現在

代表取締役	代表取締役会長	恒川 敬史		
	代表取締役社長	水野 昭智		
	代表取締役副社長	坂田 浩己		
専務取締役	長谷 周一	新藤 健二	恒川 善光	
取締役	渡部 哲也	中村 昭彦 ※1	木野 綾子 ※1	伊藤 三奈 ※1
監査役	高橋 樹	谷口 勝司 ※2	岩田 和之 ※2	
執行役員	児玉 賢隆	天野 潔	窪田 浩司	山口 佳仁
	岩田 健吾	坂根 哲史	山田 高志	香田 康彦
	平子 正之	尾形 修	都筑 秀勝	神塚 源一
	早川 栄一	安藤 弘樹		

*1 社外取締役
*2 社外監査役

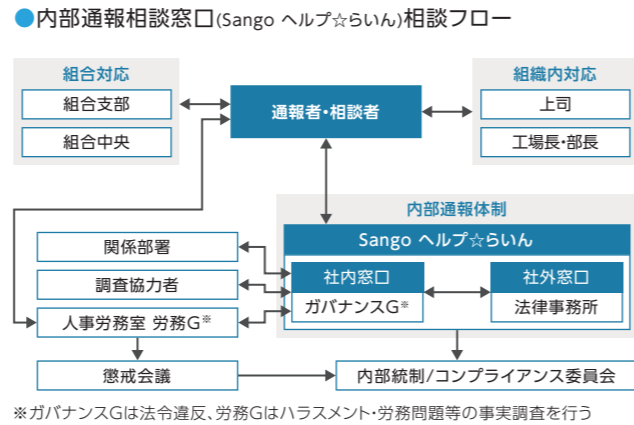
内部統制委員会

当社はコーポレート・ガバナンス体制に従い、内部統制システムを構築し、業務適正を確保するための社内体制を整えています。また、コンプライアンスやリスクマネジメントの取り組みを積極的に推進しています。



内部通報制度

不正行為の未然防止、早期発見および是正を図り、コンプライアンス体制を強化することを目的として、内部通報相談窓口「Sangoヘルプ☆らいん」を設置しています。2023年度は三五に加えて国内事業体各社とも連携して対応できるよう、内部通報制度の運用体制を強化しました。



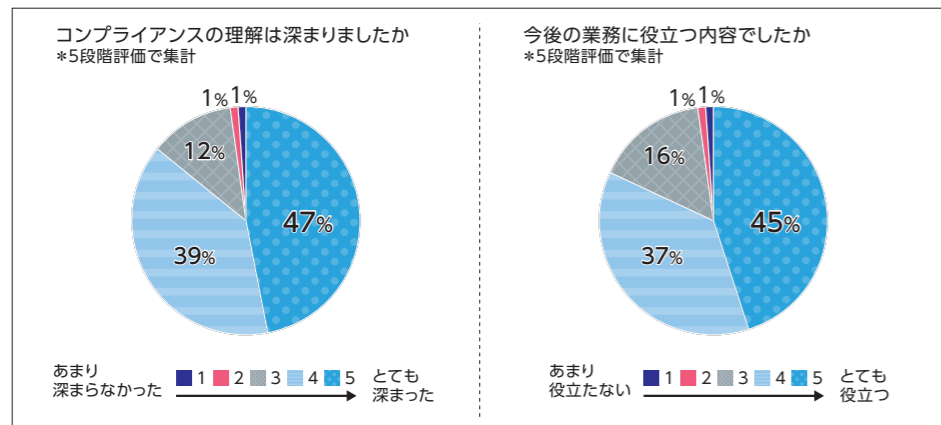
コンプライアンスの取り組み

昨今、自動車業界ではコンプライアンス違反が相次いで発覚し、顧客・社会からの信頼が大きく揺らいでいます。他人事ではなく、当社においても同様の違反が起こる可能性があることを強く認識し、従業員一人ひとりが“自分ごと”としてコンプライアンスについて意識できる啓発活動を継続して推進していきます。

「一人ひとりの行動規範とコンプライアンス遵守意識の向上」という方針の下、2023年度三五は、全従業員2,846名にコンプライアンス研修を実施し、2022年度に受講した当社役員・部長級と国内事業体全従業員と合わせて、三五グループ国内従業員全員への研修を完了しました。

どのような行為がコンプライアンス違反になるのかをイメージしやすくするため、研修は、当社の職場環境に即した具体的な事例紹介を用いて行い、また疑問点をその場で解消できるように対面式にしました。受講者からは「理解が深まった」「自分自身も気を付けて行動する」などの声があり、社内のコンプライアンス意識向上につながる研修になりました。実施した研修内容は今後E-learning化し、節目ごとの繰り返し教育として受講できるようにし、更なる研修内容の定着とコンプライアンス遵守意識の向上を図ります。

●コンプライアンス研修 実施後アンケート



ガバナンス強化に対する取り組み

2023年12月にはガバナンス強化のため、弁護士を招き、役員と部長を対象に経営講演会を開催しました。技術やノウハウなど大切な情報に関する法規制とその対応についての講演や、事例についての対応策検討のワークショップを実施しました。情報の取り扱いについて細心の注意を払うことが求められる中、三五グループの持続的成長や更なる企業価値向上につなげていきます。



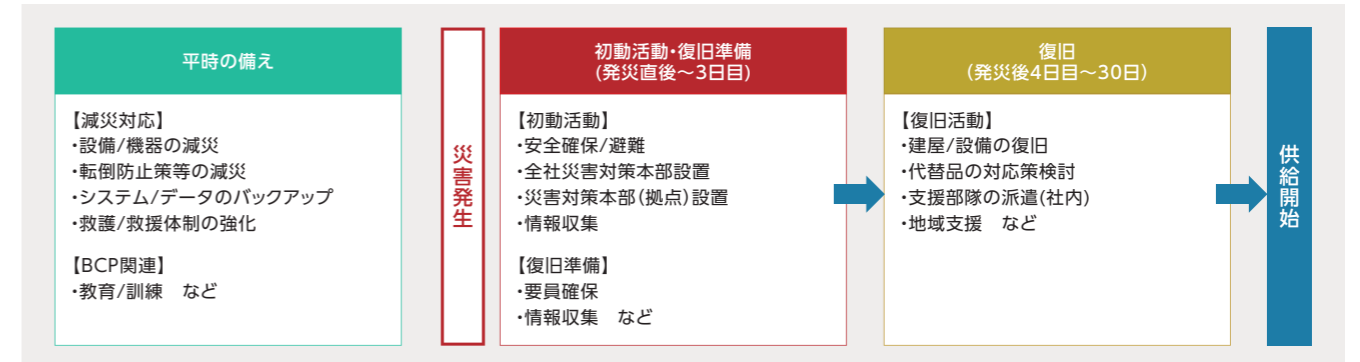
事業継続計画(BCP)基本方針

当社では、BCPの基本方針である「人命の安全確保」「被災地の早期復旧」「三五グループの早急・確実な復旧対応による事業継続」を基に、平時の備えから、万一有事が起きた際でも早期の事業継続・再開ができるよう、積極的に未然防止の改善活動および訓練や教育に取り組んでいます。

●2023年度改善活動・訓練・教育実績

キュービクル水害対策	とよはし工場 2基実施
BCP初動訓練	7拠点/10拠点で実施
安否報告訓練	3回/年実施(長期連休前)
従業員への周知活動	朝礼資料:2回(2024年1月より実施) 社内報:1回(2024年1月より実施)

●BCP活動フロー

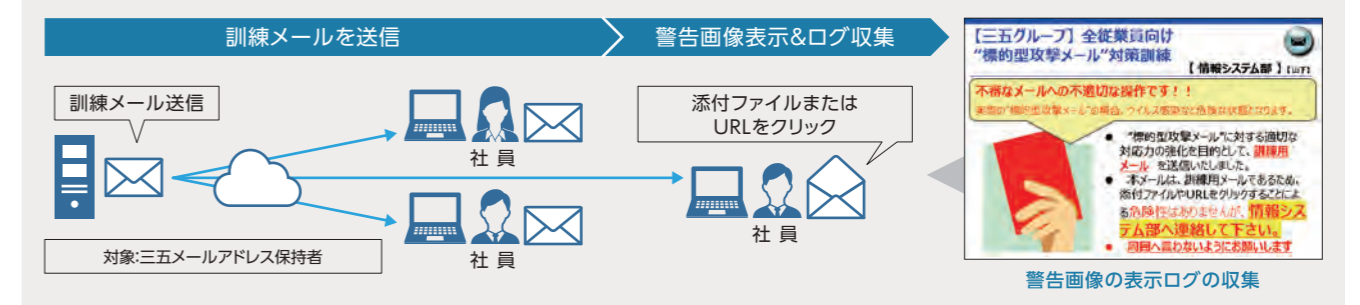


情報セキュリティ強化への取り組み

自動車産業全体のサイバーセキュリティ対策のレベル向上を目的に、日本自動車工業会と日本自動車部品工業会はセキュリティガイドラインを策定しています。当社では、このガイドラインを基に、年々増加しているサイバー攻撃への対策として積極的な情報セキュリティの強化に取り組んでいます。ガイドラインのレベル1~3の100%達成に向けて、サイバー被害発生時にも生産継続するための訓練や多要素認証への対応などを行っています。

●標的型攻撃メール訓練の実施

危険なメールへの感度を上げ、被害を防止するため継続して訓練を行っています。2023年度は、メールを起点としたサイバー攻撃への対策として全従業員を対象に、訓練メール送信パターンおよび回数を増やして実施しました。



会社概要

概要

商号	株式会社 三五
代表者	代表取締役社長 水野 昭智
本社	愛知県名古屋市熱田区六野一丁目3番1号
創業	昭和3年6月1日
会社設立	昭和25年6月1日
資本金	1億円
売上高 ^{*1}	単独総売上高/3,498億円 連結総売上高/7,294億円
従業員数 ^{*1}	単独/2,804人 非正規社員(期間従業員等)を含む 連結/8,494人 非正規社員(期間従業員等)を含む

*1 2024年3月期

主要製品

- ・マフラー
- ・エキゾーストパイプ
- ・エキゾーストマニホールド
- ・ボディ部品
- ・ドアインパクトビーム
- ・その他自動車部品
- ・冷間鍛造部品
- ・みがき棒鋼
- ・引抜鋼管
- ・機械構造用炭素鋼管
- ・切削/研削みがき棒鋼
- ・建築設備配管

主な取引銀行

- 三菱UFJ銀行
- 三井住友銀行
- みずほ銀行
- 名古屋銀行

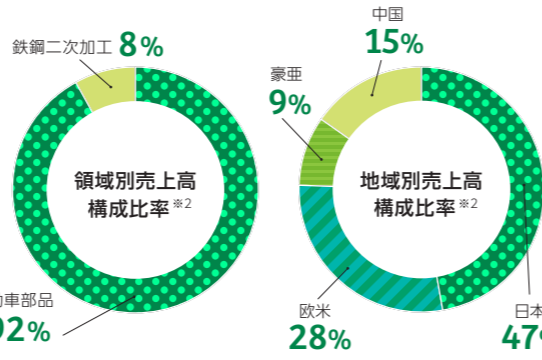
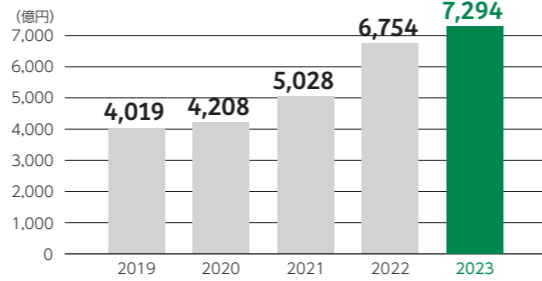
主な取引先(順不同)

- トヨタ自動車株式会社
- 日野自動車株式会社
- ダイハツ工業株式会社
- 日産自動車株式会社
- 三菱自動車工業株式会社
- いすゞ自動車株式会社
- 株式会社SUBARU
- マツダ株式会社
- 株式会社豊田自動織機
- トヨタ自動車東日本株式会社
- トヨタ車体株式会社
- 株式会社トヨタカスタマイジング&ディベロップメント
- 株式会社アイシン
- 株式会社ジェイテクト
- KYB株式会社
- 豊田通商株式会社
- 住友商事株式会社
- 浅井産業株式会社
- 株式会社メタルワン
- 株式会社カノークス

沿革

- 1928年 6月 恒川鉄工所を創業、プレス加工を開始
- 1934年 9月 株式会社豊田自動織機製作所と取引開始
- 1937年 8月 トヨタ自動車工業株式会社と取引開始
- 1950年 6月 株式会社三五を設立
- 1950年 9月 高蔵工場(現・本社 旧名古屋工場)を新設
- 1954年 3月 排気系(マフラー、エキゾースト)の製造開始
- 1962年 5月 本社名古屋工場にマフラー、エキゾーストパイプの研究室を設置
- 1967年 8月 三好工場(磨棒鋼の専門工場)を新設
- 1973年 11月 豊田工場にマフラー、エキゾーストパイプの技術・研究棟完成
- 1976年 5月 トヨタ生産方式導入
- 1987年 1月 米国に合弁会社「Arvin Sango, Inc.」設立(初の海外進出)
- 1994年 8月 八和田山工場に「技術本館」完成
- 2008年 11月 本社(ECO35)にマフラーミュージアム完成
- 2015年 6月 豊田技術センター(旧豊田工場)に「第2技術館」完成
- 2016年 5月 中国に「三五広州R&Dセンター」完成
- 2021年 6月 ISO9001・2015を認証取得
- 2023年 5月 福田工場に「新プレス棟」完成

売上高推移 グループ連結



*2 株式会社三五および連結子会社を含めた2023年度の実績値

国内・海外拠点



本社
〒456-0023
愛知県名古屋市熱田区六野一丁目3番1号
TEL(052)882-0035
FAX(052)882-3562

A 株式会社 三五北海道
〒059-1373
北海道苫小牧市真砂町41番地2
TEL(0144)51-5135

B 株式会社 三五関東
〒304-0005
茨城県下妻市半谷1100番5
TEL(0296)45-0035

C 株式会社 三福
〒828-0044
福岡県豊前市大字小石原185-8
TEL(0979)84-0735

D SEセンター
〒160-0023
東京都新宿区西新宿3丁目2番11号
新宿三井ビルディング2号館1606号室
TEL(03)5909-3935
FAX(03)3347-1135

E 株式会社 SANGOマシンテック
〒456-0004
愛知県名古屋市熱田区桜田町17番12号
TEL(052)884-3531

F 株式会社 三五パートナーズ
〒470-0294
愛知県みよし市福田町宮下1番地1
TEL(0561)34-8301



1 トルコ(STI)
Sango Türkiye, Inc.(TUR)

4 インドネシア(SID)
PT. Sango Indonesia(IDN)

5 中国・広州(GSC)
Guangzhou Sango Automotive Parts Co., Ltd.(CHN)+ R&D Center

8 カナダ(ASCI)
Arvin Sango Canada, Inc.(CAN)

2 インド(SIAP)
Sango India Automotive Parts Pvt. Ltd.(IND)

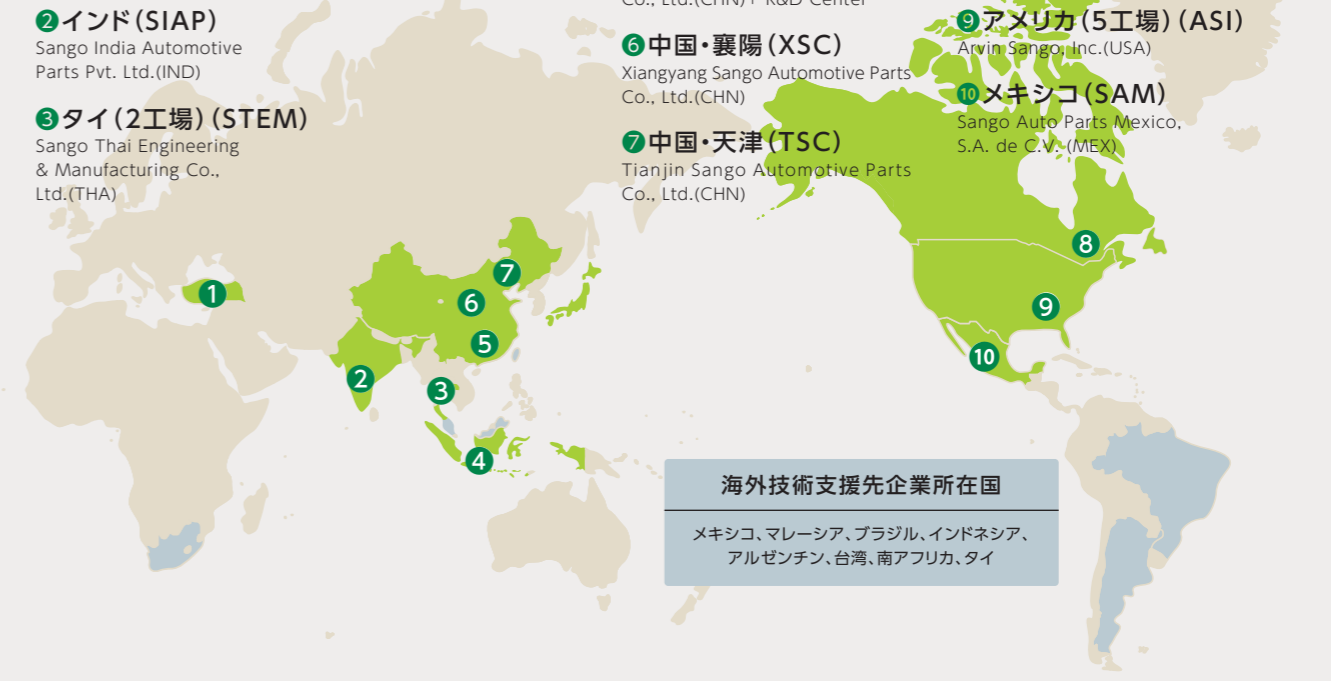
6 中国・襄陽(XSC)
Xiangyang Sango Automotive Parts Co., Ltd.(CHN)

9 アメリカ(5工場)(ASI)
Arvin Sango, Inc.(USA)

3 タイ(2工場)(STEM)
Sango Thai Engineering & Manufacturing Co., Ltd.(THA)

7 中国・天津(TSC)
Tianjin Sango Automotive Parts Co., Ltd.(CHN)

10 メキシコ(SAM)
Sango Auto Parts Mexico, S.A. de C.V.(MEX)



海外技術支援先企業所在国

メキシコ、マレーシア、ブラジル、インドネシア、アルゼンチン、台湾、南アフリカ、タイ

工場 (中部地方に8工場)

豊田技術センター/R&Dセンター

〒471-0836
愛知県豊田市鴻ノ巣町三丁目1番地
TEL(0565)28-3535(代)
FAX(0565)28-4463



三好工場

〒470-0224
愛知県みよし市三好町井ノ口47番地
TEL(0561)32-3511(代)
FAX(0561)34-0157



福田工場

〒470-0294
愛知県みよし市福田町宮下1番地1
TEL(0561)34-0035(代)
FAX(0561)34-1240



とよはし工場

〒441-8074
愛知県豊橋市明海町三丁目33番地
TEL(0532)23-3515(代)
FAX(0532)23-3519



八和田山工場/R&Dセンター

〒470-0224
愛知県みよし市三好町八和田山5番地35
TEL(0561)32-3501(代)
FAX(0561)32-0235



三好第3工場

〒470-0224
愛知県みよし市三好町池守田63番地
TEL(0561)33-3595(代)
FAX(0561)33-3594



いなべ工場

〒511-0508
三重県いなべ市藤原町藤ヶ丘1番地1
TEL(0594)46-5135(代)
FAX(0594)46-3560



米野工場

〒511-0502
三重県いなべ市藤原町上相場2438-1
TEL(0594)46-8635(代)
FAX(0594)46-8636

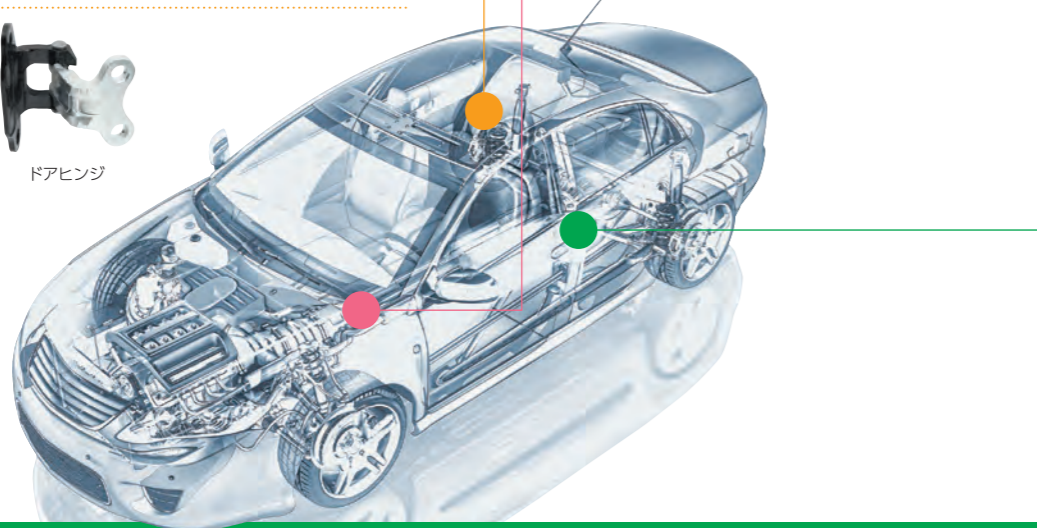


製品紹介

ボディ・シャシー製品



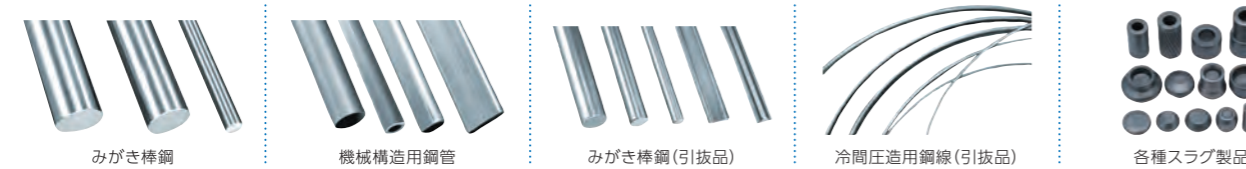
駆動系製品



排気システム

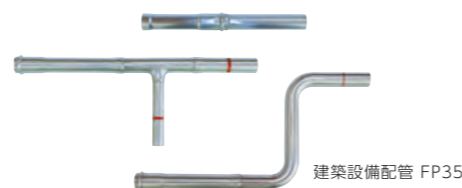


精鋼製品



建設業界向け製品

自動車分野で培ったものづくりの技術を活かし、自動車分野以外の製品開発を進めています。



数字で見る三五 2023年度

環境

CO₂排出量



累計植樹本数



植樹による累計CO₂吸収・固定量



社会

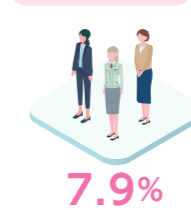
従業員数



平均年齢



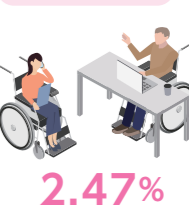
女性従業員比率



平均勤続年数



障がい者雇用率



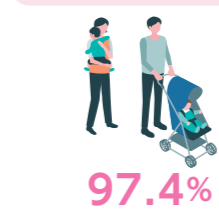
女性管理職比率



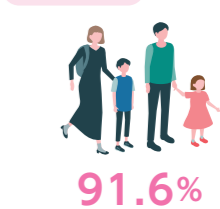
育児休業取得率



育児休業からの復職率



有給取得率



平均残業時間



社内教育講座数



通信教育講座数



国家技能検定資格取得者数



ガバナンス

取締役(社外取締役3名を含む)



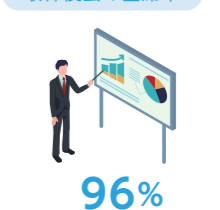
監査役(社外監査役2名を含む)



取締役会の開催回数



取締役会の出席率



<Sangoヘルプ☆らいん> 内部通報相談件数



コンプライアンス研修*3 受講率



セキュリティ研修受講者数(延べ)



*1 三五グループ全体の実績値 期間従業員・パート含む直接雇用人数(印ない箇所は三五単体の値) *2 女性管理職数 ÷ 管理職数 × 100(%)、管理職=基幹職以上 *3 法令遵守や人権課題(ハラスメント、差別、多様性など)、倫理についての研修